新宮YEG

紀州材並べギネス世界記録
道路開通記念し挑戦

紀州材を並べて置く参加者たち

新宮商工会議所（和歌山県）青年部（新宮YEG）などで構成する実行委員会は9月29日、「『木材並べ』でギネス世界記録に挑戦!!」を開催した。同イベントは、新宮紀宝道路開通と「紀伊山地の霊場と参詣道」世界遺産登録20周年を記念したもの。新宮紀宝道路に地元特産の木材「紀州材」を並べて和歌山県と三重県をつなぎ、ギネス世界記録™「Longest line of squared timbers（最も長い材木の列）」に挑戦し、見事、認定を勝ち取った。

新宮紀宝道路は今秋開業予定の、紀伊半島を一周する高速道路の1区間。延長2・4キロメートルで、和歌山県と三重県の県境には821メートルの「熊野川河口大橋」が設置されている。同イベントでは約300人の参加者が協力し、この橋の上に1本約4メートルの紀州材を150本、並べて置いていった。

使用した紀州材には、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の地元スポット名を記載して、いにしえの熊野古道をイメージした。同イベント後、紀州材はベンチなどの木製品に加工し、ふるさと納税の返礼品として活用する予定だ。

同イベントに紀州材を使用した背景には、かつて同地域が多くの木材を送り出す「木の国」と呼ばれていたことが挙げられる。外国産木材の進出やウッドショックなど、木材を取り巻く環境が刻々と変化する中で、改めて地域資源である紀州材に注目し、地域活性化につなげる狙いがあった。

同所担当者は「約1年かけて事業成功に向けて青年部メンバー全員が一丸となってやってきた。ギネス世界記録の認定を受けることができ、良かった」と話した。

2024年11月1日 会議所ニュース（日本商工会議所） (C) 日本商工会議所 無断複製転載を禁じます。